



令和4年第3回 安全対策連絡協議会

令和4年9月13日
在エチオピア日本国大使館



参加者の方へのお願い

- マイク及びビデオの設定をオフにしてください。
- 発言希望の方は、「挙手ボタン」で合図をお願いします。
- 当地における停電、通信事情により、会議中にトラブルが発生する可能性があります。ご理解願います。



次 第

1. 大使挨拶
2. 国内情勢
 - (1) ティグライ情勢
 - (2) 国内治安
3. 医療状況（新型コロナウイルス、サル痘）
4. 質疑応答



1. 大使挨拶



2. 国内情勢

(1) ティグライ情勢

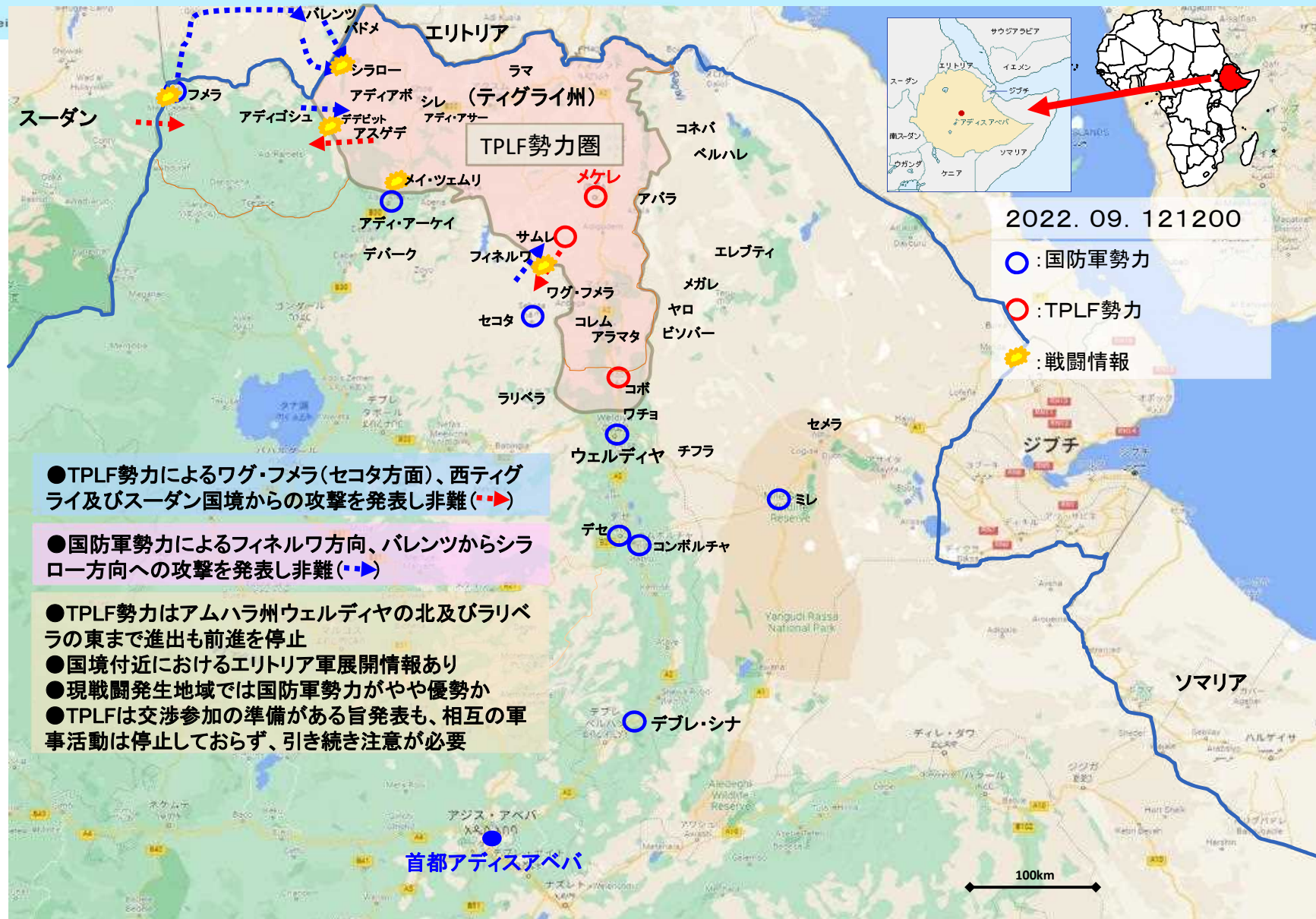


政治・外交の主な動き（2022年5月以降）

- **5月 8日** **TPLFとエリトリア軍の小規模衝突**
- 5月27日 アビィ首相が人道問題に関するAU特別総会に出席
- 5月27－28日 アビィ首相がケニア訪問
- **5月28－29日** **TPLFがエリトリア軍と小規模衝突**
- 6月 1日 ハマー米アフリカの角特使の任命
- 6月2日 オバサンジョAUアフリカの角上級代表が当地を訪問
- 6月9日－11日 アビィ首相がソマリア（大統領就任式）及びジブチを訪問
- 6月13日 マイオ伊外相が当地訪問
- 6月14日 デブレツィオンTPLF議長が各国首脳宛書簡（交渉条件等）を公表
- 6月20－21日 中国主導のアフリカの角平和会議の実施
- 6月20－21日 レナルチッチ欧州委員の当地（含むメケレ）訪問
- 6月21日 モンゴメリー英アフリカの角・紅海特使の任命
- 6月27日 連邦政府がデメケ副首相兼外相率いる和平交渉チームのメンバーを任命
- 7月 6日 アビィ首相が第39回IGAD臨時首脳会合に参加
- 7月19日 TPLFが和平交渉チームを設置したと発表
- 8月 2日 米、EU及び国連事務総長のアフリカの角特使らがメケレ訪問
- **8月15日** **国防軍とTPLFによる小規模衝突**
- **8月24日** **国防軍とTPLFによる戦闘再開**
- 8月28－29日 アビィ首相がアルジェリアを訪問
- **9月11日** **TPLFが政府と和平交渉を開始する準備がある旨発表**

〈今後の注目すべき動き〉

- ✓ 第三者の仲介努力：オバサンジョAUアフリカの角上級代表、ハマー米アフリカの角特使、ウェーバーEUアフリカの角特使、テデ国連事務総長アフリカの角担当特使らによる仲裁努力が継続。
- ✓ AU主導の下、政府とTPLFの間で和平交渉が開始されるか。
- ✓ 延期となっていた地方選挙が本会計年度（23年7月7日まで）内に実施される予定。



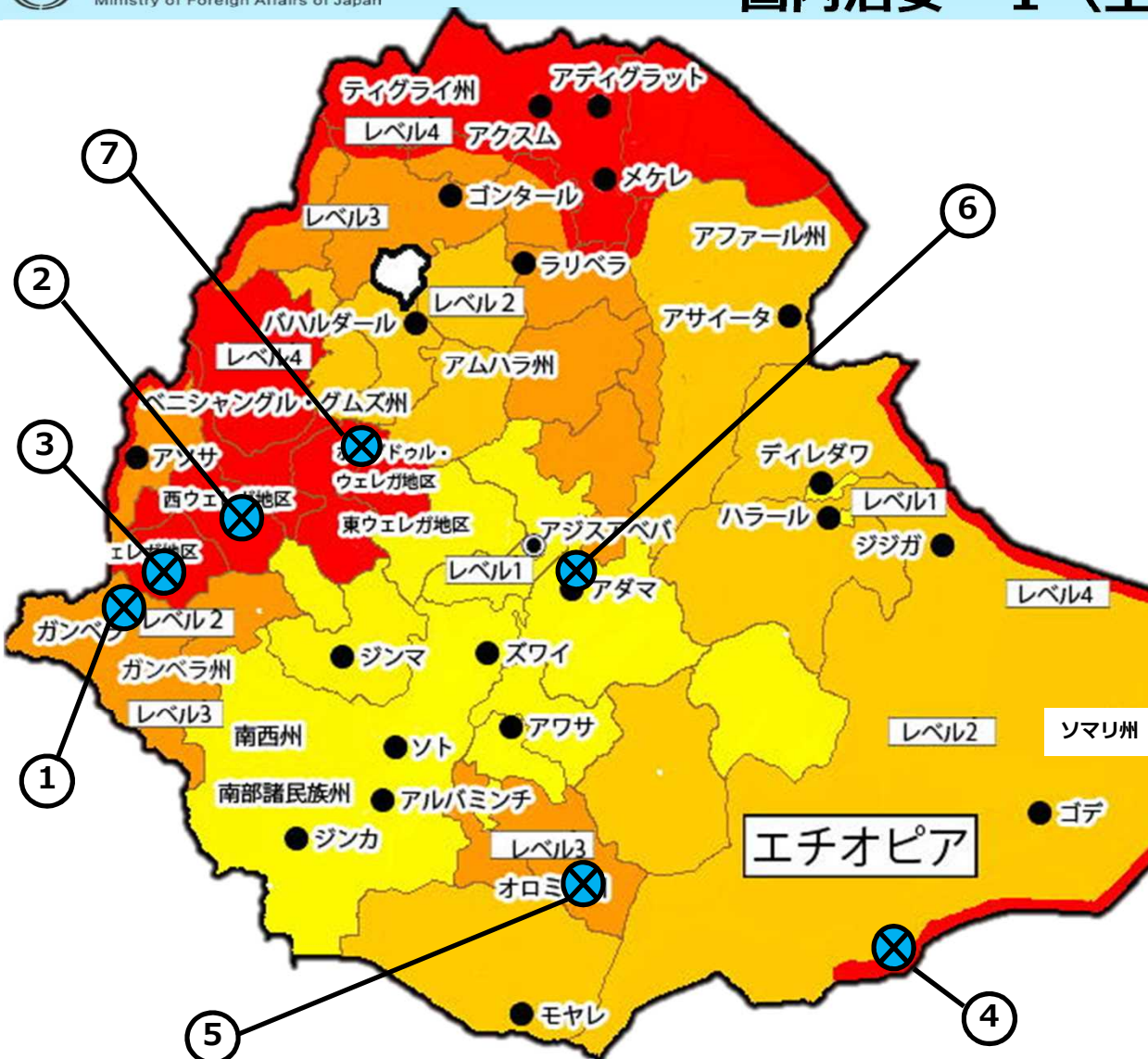


2. 国内情勢

(1) 国内治安



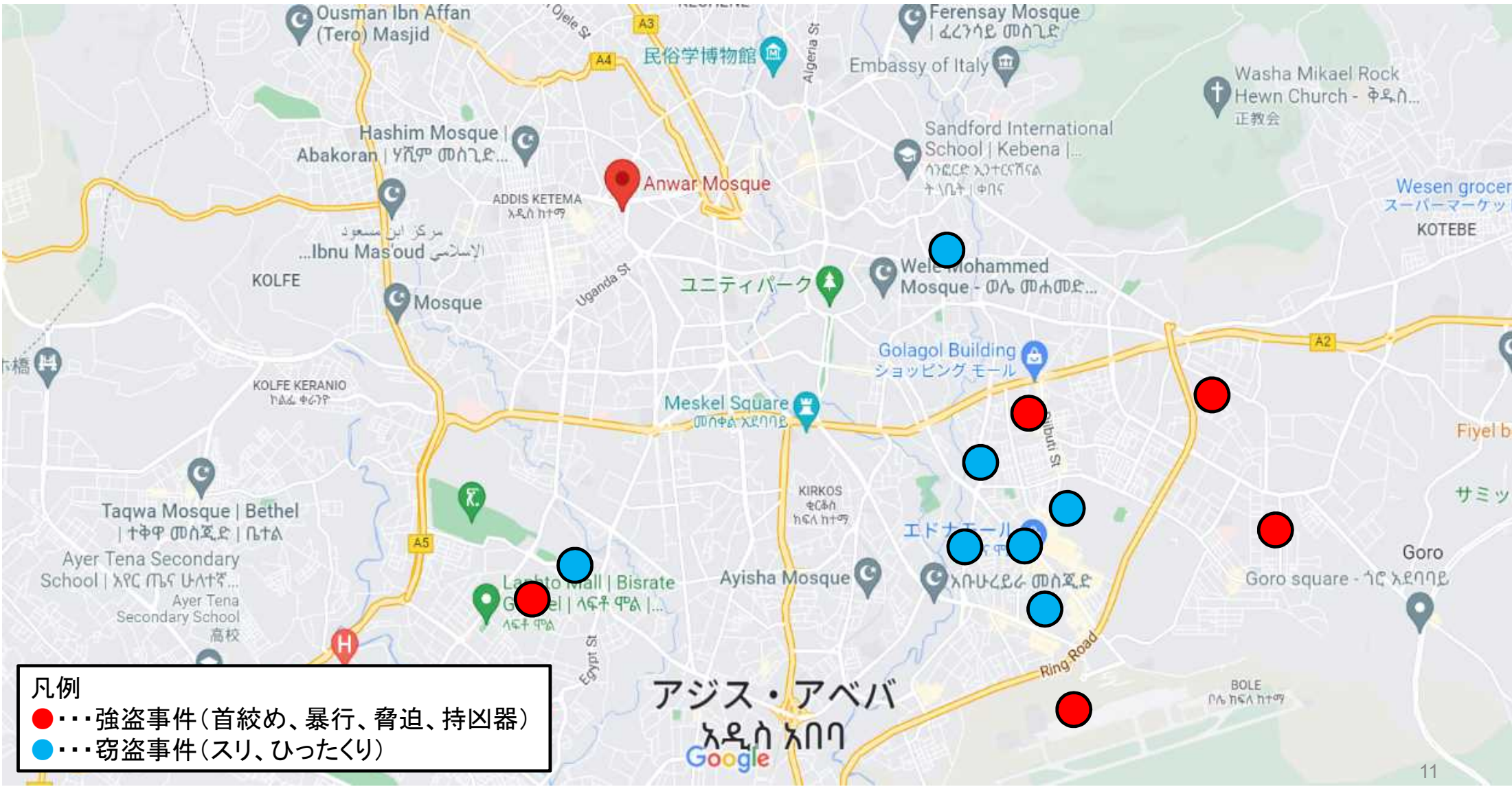
国内治安 1 〈全体〉



番号	発生場所	詳細
①	ガンベラ州 ガンベラ市	6/14、武装集団が市内に侵入し、治安部隊と衝突。 治安部隊11名死亡、武装集団の戦闘員26名死亡、民間人3名死亡。
②	オロミア州 西ウェレガ県	6/18、Gimbi郡で、武装集団による襲撃事件。アムハラ族の 民間人338名が死亡。
③	オロミア州 ハムウェレガ県	7/4、Hawa Galan郡で、武装集団による襲撃事件により、アムハラ族の 民間人約150名が死亡。
④	ソマリ州 アフデル県	7/21、Barey県で、治安部隊とアル・シャバーブとの間で衝突が発生。 警察官17名、アル・シャバーブ戦闘員63名死亡。
⑤	オロミア州 東グジ県	7/10～13、Golo Doraで治安部隊と武装集団との銃撃戦。 少なくとも21名死亡。
⑥	オロミア州 東シェワ県	8/17、Boset郡で武装集団による襲撃事件。 オロモ人8名死亡。
⑦	オロミア州 和グドゥル・ハムウェレガ県	8/30,31、AmuruでFANOと思われる武装集団による襲撃。 民間人60名以上死亡、70名以上負傷。

- 外国人対象街頭犯罪の発生状況
- 実際にあつた被害事例と防犯対策

外国人対象 街頭犯罪発生状況（2022年5月19日～ 当館認知）





実際にあった被害事例 1

➤ 事案

首絞め強盗

➤ 発生日時

5月19日（木）午前4時30分ころ

➤ 事案の概要

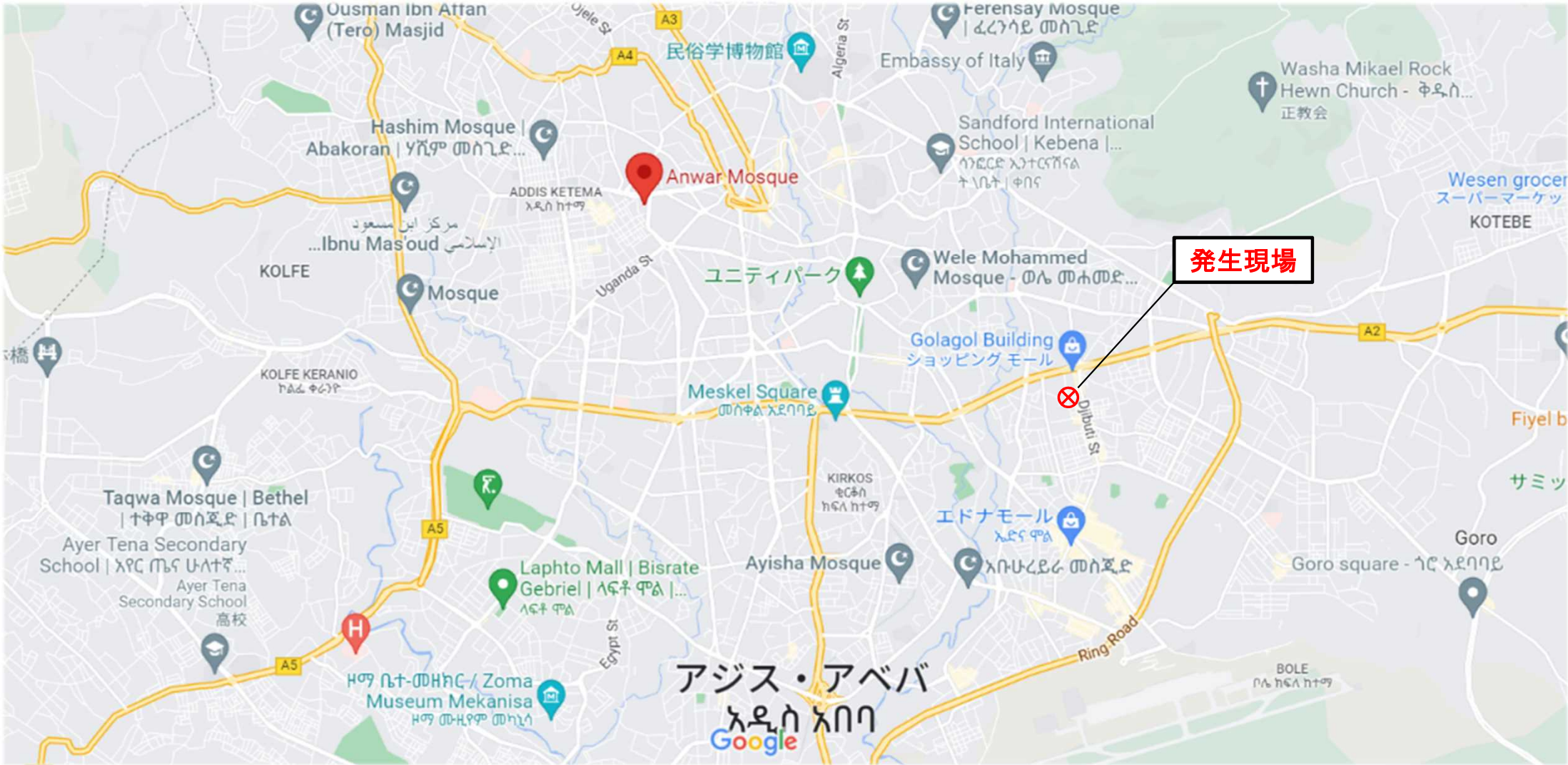
被害者が、ボレ地区においてホテルを探して**単独で歩いていたところ**、後方から男2名が走って接近してきた。

そのうちの1名が、**背後から被害者の首を絞めた**。首を絞められたことで被害者はその場で気を失った。意識を取り戻したところ、バックパックの中の所持品が奪われていることが判明した。



出典:外務省 海外安全虎の巻

発生現場見取図



発生現場見取図（詳細）





発生現場の写真 1





発生現場の写真 2





出典:外務省 海外邦人事件簿

実際にあった被害事例に学ぶ 1

➤ 被害に遭わないために

- ・ **日没後や早朝の暗い時間帯の外出は避け**、やむを得ず移動しなければならない場合は、**必ず車両を使用する**。
- ・ 大通りから外れた**人気のない小路は避ける**。
- ・ 常に**周囲の警戒を怠らない**。万が一、不審な者が近付いてきたと感じた場合は、速やかにその場から離れ、近くの警察官や第3者に対し、大きく分かりやすい言葉で助けを求める。
- ・ **銃器や刃物で脅された場合、抵抗することなく指示に従い、生命の安全を最優先させる**。

実際にあった被害事例 2

➤ 事案

窃盗（スリ）

➤ 発生日時

2022年8月14日（日）午前9時55分ころ

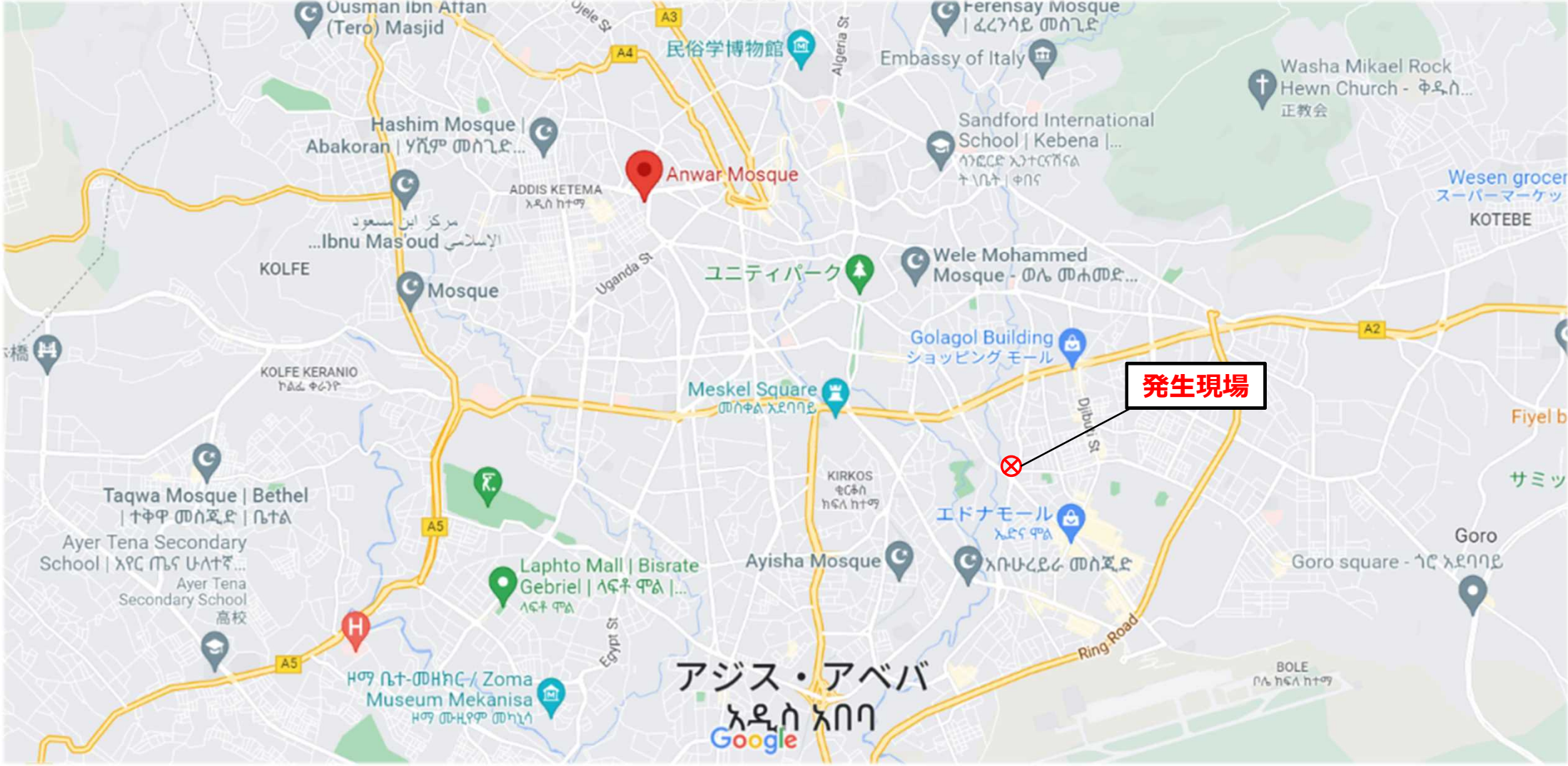
➤ 事案の概要

被害者が、ボレ地区において歩道を単独で歩いていたところ、停止した車から男1名が降車した。突然、その男は被害者の方を向いて「**くしゃみ**」をし、男の**唾**が**被害者のズボンに付着**した。男は謝りながら**被害者のズボンに付いた唾をティッシュで拭き取ると**、再び車両に乗り込み、車両は現場から走り去った。直後、被害者は、**ズボンのポケットに入れていた携帯電話がなくなっていたことに気付いた。**



出典:外務省 海外邦人事件簿

発生現場見取図





発生現場見取図（詳細）





発生現場の写真 1





発生現場の写真 2





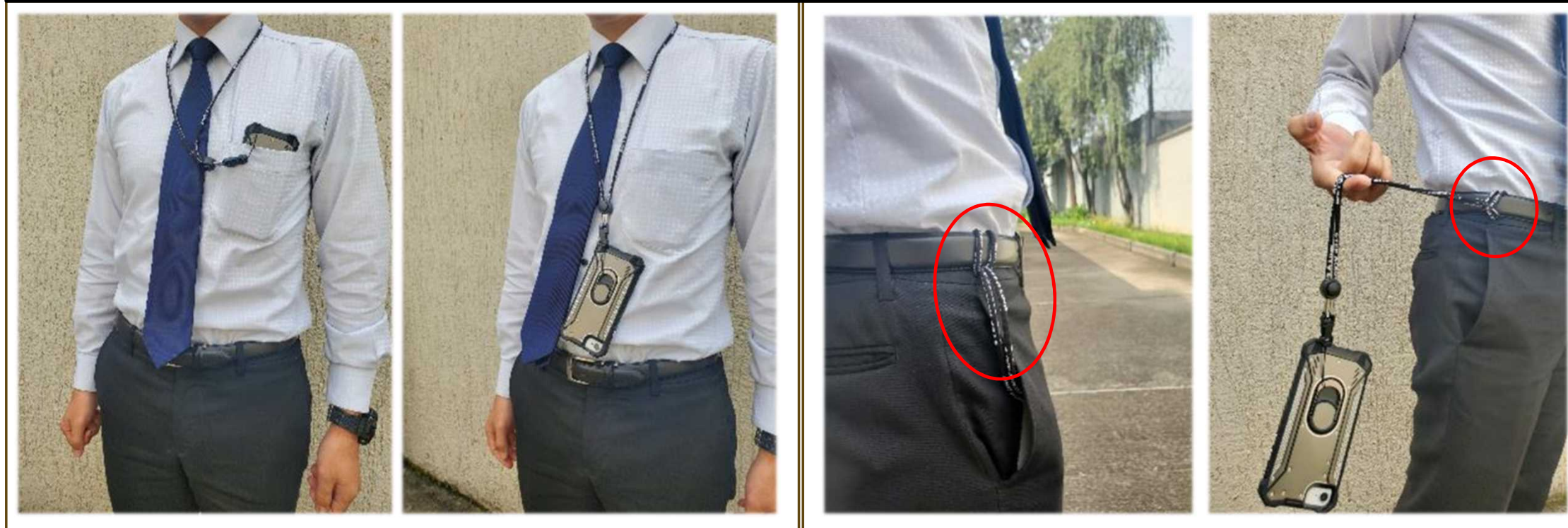
出典:外務省 海外邦人事件簿

実際にあった被害事例に学ぶ2

➤ 被害に遭わないために

- ・ 日中・夜間を問わず、やむを得ない場合以外の徒歩移動は極力避ける。
- ・ 貴重品は、容易に盗まれる状態で持ち歩かない。
- ・ **貴重品**には**チェーンやストラップ**を付け、**着衣や身体に結着**するなど、スリ被害防止対策を講じる。
- ・ よく見られる**スリの手口**（**水をかける、唾を吐きかける、執拗に物を売りつける、衣服をつかんで引っ張る**などして気を引いている隙に、仲間が貴重品を奪う）を知る。
- ・ 銃器や刃物で脅された場合、抵抗することなく指示に従い、**生命の安全を最優先**させる。

ネックストラップの活用



盗難防止、紛失・落下防止にも有効

帰国

出発

海外滞在中

出発前





3. 医療状況

（新型コロナウイルス、サル痘）



➤ 新型コロナウイルス感染症について

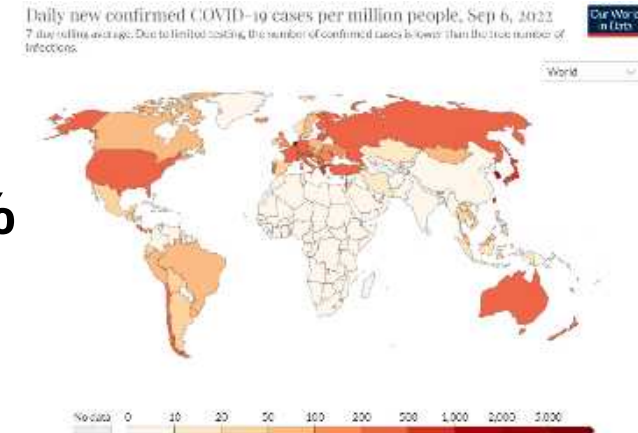
- ① 感染状況
- ② ワクチン接種の状況
- ③ 医療機関の体制
- ④ エチオピア保健省、WHO、CDCの推奨

➤ サル痘について

- ① サル痘の感染状況概要
- ② 疾患概要

新型コロナウイルス ①感染状況

- ・ これまで5つの流行の波を経験。2021年12月の第4波が最大。WHOおよびWHOエチオピア情報 [2022年9月6日時点]
- ・ 新規感染者数は第5波以来、減少傾向。周辺国も同様。
9月6日までの1週間で98人/週、前の週より34%減少。
- ・ 死亡数は、8月の1ヶ月間で4名。直近は8月30日の1名。
- ・ 総数は、感染者493,272人、死者7,572人、致死率1.53%
- ・ 検査陽性率も減少傾向で0.3% (15,017件中)。
- ・ 7月最大時は18%。



新規感染者数/日

5185/日

新規死者数/日

※縦軸のスケールは
異なります



新型コロナウイルス ②ワクチン接種状況

・ ワクチン接種率 (2022/7/31)

partial	Full	Booster
3.3 %	30.5%	2.0%
399万	3680万	242万

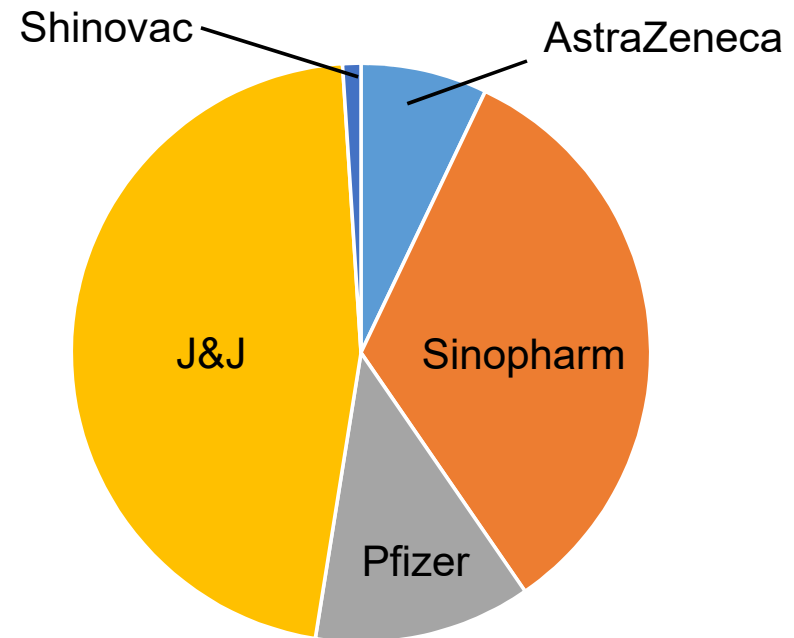
[人口 12,077万人]

**1回以上
接種した人
35.8%**

・ ワクチン内訳

J&J	46 %
シノファーム	33 %
ファイザー	12 %
アストラゼネカ	7 %
シノバック	1 %

[2022年7月31日現在]



- 公立病院は全ての医療機関で患者受け入れ継続。
多くは、救急外来で（問診までは）他の患者と一緒に待つ。
診察室は一般外来とは別。入院体制はマチマチ。
- 私立病院は一部の病院を除き、外来対応（診断と対症療法）のみ。
- 全国64のCovid-19治療センターは7月15日に運用終了。
リア保健相は同日、臨時の職員との契約を解除したと発表。
- ワクチンは外国人も国民と同じ条件で接種可能。
事前に各医療機関に在庫を確認して受診。接種証明書を発行。

➤ EPHI は、以下の全ての予防措置を厳守するよう一般市民にアドバイス
(Ethiopia Public Health Institute)

- ✓ 物理的な距離を維持する
- ✓ 水と石鹸で頻繁に手を洗う
- ✓ 大勢の集まりを避ける
- ✓ 屋外に出るときは、口と鼻を顔/布マスクで覆う
- ✓ 機会があればすぐにワクチン接種を受けるよう推奨



出典: Voice of America

誰でも次にCOVID-19 に感染する可能性があります。

**今行動すれば予防できます。このパンデミックでお互いをサポートし、
推奨される予防策が命を救う可能性があることを他の人に思い出させましょう。
[EPHI Covid-19 Weekly Report]**



➤ ガイドンスの正しい運用を推奨

一部の国では制限の緩和を進めていることを踏まえ、再アウトブレイクに備えて、大規模な社会対策のガイドンスを公表。正しい運用で、次世代のために健康上の危機と戦う方法を身につけることができる。

➤ 医療機関の逼迫への配慮

アウトブレイク時の医療システムへの圧倒は、予防可能な直接死亡や、他の患者へのサービス維持を困難となる。難しい決断となることも。

➤ 肉体的な健康被害とともに**精神的影響**を考慮。



- **大規模な集会について**
集会の制限は、感染の拡散抑止に役立った。警戒を続けることが重要。
必要な予防措置と安全対策について、個別ガイドラインも提供。
- **飲食店の例：プラスチック手袋の使用、社会的距離、食事の配達など、食品の安全に関するガイダンスを公開。**
- **各種ガイドラインの共通点**
 - ・ 政府が国民とコミュニケーションを取りつつ決定することを推奨
 - ・ **手を洗う、距離を保つ、有症状時は家にいる、などは普遍的な対策。**
 - ・ COVID-19 の感染者へのモニタリングは引き続き推奨。

大きくは**ブレイク時**と変わっていない



- ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保など予防処置の継続
- 自身と他者の症状に注意して、換気状況、接触時間を意識する。
- 症状が出現したときは適切な対応を
- 旅行の注意点など追記 自己と他者（他国）を守る視点
事前確認事項のリストをチェック（国、州、都市別）
現地で発症したときの対応準備等

令和4年9月7日（日本時間）以降 新たな水際措置

滞在していた国・地域の区分	有効なワクチン接種証明書	入国時の検疫措置		
		出国前検査	到着時検査	待機
 青	あり	不要		
	なし	必要	なし	なし
 黄	あり	不要		
	なし	必要		
 赤	あり	不要	あり	自宅3日間 ※1
	なし	必要	あり	施設3日間 ※2

エチオピアは青区分です

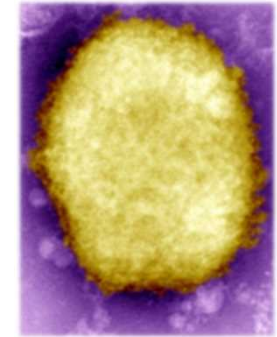
- 令和4年9月7日午前0時より、日本の水際措置が変更。
- エチオピアから日本に入国する場合、**有効なワクチン接種証明**を保持していれば、出国前検査が不要。
- **有効なワクチン接種証明書**を保持していない場合は、これまでどおり、**出国前72時間以内**に受けた検査の陰性証明書の提出が必要。
- **有効なワクチン接種証明書を「あり」とできるのは、日本政府が定めたワクチンを接種している場合に限り**ますので、詳細は厚生労働省HPなどでご確認ください。



サル痘について

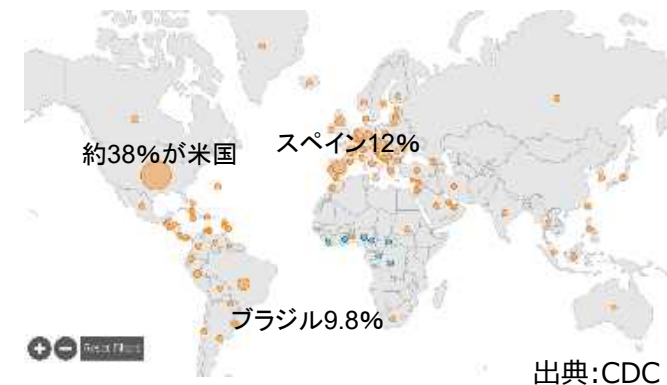
感染者の皮膚の写真をスライド右側に提示いたします。

気分を害する恐れがある方は、閲覧にご注意ください。



サル痘 感染状況概要（WHO発表9月18日現在）

- 天然痘に似た「サル痘ウイルス」による人畜共通感染症（動物・人→人）。
- 元々はアフリカ中央部から西部でみられた疾患が、
全世界中に感染が急に**拡大した原因は不明**。
- サル痘の感染は100か国・地域、累計で約55,000人
[米CDC: 2022 Monkey Pox Outbreak Global Map より]
- 7月23日、WHOは、サル痘の世界的な感染拡大が
「国際的に懸念される**公衆衛生上の緊急事態**」と認定。
- エチオピア：9月8日現在、サル痘患者検出の発表なし
周辺国で検出されたのはスーダン（2名）のみ



出典: WHO Website

サル痘（Monkey Poxとは） 1



出典: gltrends.com

- 感染経路：接触 血液、体液、皮膚の接触
(性的接触が多いという報告も)
- 潜伏期間：接触から5-21日（多くは6～13日）
- 症状と経過
 - ・ 発熱や頭痛、リンパ節の腫脹や皮疹
 - ・ 皮疹は顔面（95%）や手掌（75%）、口腔内（70%）
 - ・ 発熱後、数日して皮疹が現れる
形状は水痘や麻疹と区別が付かないものもあるが多くの場合は、
水疱→膿疱→痂皮化して発症から2～4週間で自然に治癒する
 - ・ 致死率3～6% 死因は感染後の二次感染、肺炎、敗血症、脳炎。

- **診断** PCR等だがまだ未確立。皮膚検体を送って精査
- **治療** 対症療法のみ、予防が治療に勝る。
感染者との接触後（発症前）に天然痘ワクチンを接種（入手困難）。
天然痘治療薬（テコビリマット）が欧州で治療薬として認可も入手困難。
- **対策**
動物（皮膚、生肉、血液）や皮疹をもつ人と接触を避ける
触れた場合は石けんで手洗い
又はアルコール消毒。マスク着用と手指の細かな消毒を継続。
動物の肉はよく火を通し、生肉を扱った後はよく手を洗う



出典:monimomama.com

エチオピア入国時の「サル痘」に関するオンライン申告制度

1. 2022年6月30日から、トランジットを含むアディスアベバ・ボレ国際空港に到着する全ての乗客は、エチオピアへの出発前21日以内の滞在国等をオンラインで申告し、QRコード付きの申告証明書を取得の上、到着時に提示することが求められることとなりました。

2. QRコード付き申告証明書の取得手順

(1) 以下のリンクから、登録フォームに必要事項を入力してください。

<https://forms.gle/zpDUEyHzEByyQw4A8>

(2) 指示に従い、メールアドレス、氏名・国籍・旅券番号等などの人定事項、21日以内に滞在した国名、サル痘感染者との接触の有無、健康状態等を入力し、全ての必要事項の入力が完了したら、回答を送信してください。

(3) 登録したメールアドレスに、QRコード付きの申告証明書（又は回答フォーム）が送信されますので、証明書を印刷するかスマートフォンなどの端末に保存の上、空港係員の求めに応じて提示してください。

3. 補足事項

当館からエチオピア公衆衛生研究所（EPHI）に確認したところ、本制度は、年齢を問わず全ての乗客が対象となり、また、オンライン申告の時期は、エチオピアへの出発前24時間以内となります。

Monkeypox Registration Certificate

To prevent your health, your family, and others' (EOP) health or health of others, please fill out this form before boarding an aircraft to Ethiopia. The health status of the user of the form will be used to determine if the user is at risk of contracting the disease. Your information will be held confidentially and used only for public health purposes.

Amharic / English / English / Amharic

Amharic / English

For all respondents

Have you visited any country in the last 21 days?

☐ Yes

☐ No

If Yes, List of countries affected by Monkeypox

☐ 1. Argentina

☐ 2. Brazil

☐ 3. Canada

☐ 4. France

☐ 5. Germany

☐ 6. Italy

☐ 7. Mexico

For non-Ethiopian residents

Are you a resident of Ethiopia?

☐ Yes

☐ No

Full Name

姓・名を入力

Duration of stay

滞在期間を入力

40



4. 質疑応答



ご静聴ありがとうございました。

お問い合わせはこちら

警備領事班

0911-200-721（高橋）

eiji.takahashi@mofa.go.jp

0911-216-773（吉田）

shoichi.yoshida-2@mofa.go.jp